

文化情報論・社会学コースのコンセプトと 新任教員に期待するもの

1. 文化情報論・社会学コースのコンセプト

信州大学人文学部では、文化情報論・社会学コースの社会学系研究室の専任教員を公募いたします。

文化情報論・社会学コースは、現代社会がかかえる諸課題に対して鋭敏な問題探求能力を持つとともに、みずから体系的手法によって諸問題を分析し、解決に向けて行動する実践能力を養成することを教育の目標としています。

この教育目標の達成のため、所属の学生はコースの概論科目や特論科目などを通して基本的な学術的知見や経験科学に関するリテラシーなどを共通して学びます。さらに、コースは、2年次以降で履修する重要な実習や資格取得方針などによって「文化情報論系研究室」と「社会学系研究室」にわかれており、それぞれで特色のある専門性を身につけていく構造になっています。こうした専門性をふまえ、卒業研究や実習などは、原則としてそれぞれの系で実施しますが、必要に応じてコース内での指導を行い、またコース運営はすべての研究室が協力して実施します。また、情報リテラシーと調査リテラシーを身につけるための教育を目指しており、社会調査士の標準カリキュラムを満たす授業を開設するとともに、学生の社会調査能力を客観的に保証するために、社会調査士の資格取得を推奨しています。

文化情報論・社会学コースの社会学系研究室の専門教育においては、次の3つの柱を据えています。

第一に、社会学の基礎的な理論と経験社会学の分析手法にかかわる教育を通して、地に足を据えた社会学的認識の方法を体得すること。

第二に、社会調査に関する体系的なカリキュラムを通して、社会調査のリテラシーを確実に身につけさせること。

第三に、長野県内の地域社会からグローバル社会・サイバー空間まで、現代社会のさまざまなフィールドにおける調査体験を通して、現代社会の実情と課題を直接に体験・実感し、知識を実践へと結びつける感覚を涵養すること。

これらの柱に沿ったカリキュラムによって、社会学的認識能力、社会調査能力

と経験的な分析能力を身につけさせ、現代社会の様々な場面で活躍する有為な人材を養成することを目指しています。

なお、現在、文化情報論・社会学コースは3人の教員から構成されており、文化情報論系研究室には2名の教員、社会学系研究室には1名の教員が在籍しています。専門分野は認知心理学、情報コミュニケーション学、計量・数理社会学です。すべての教員は、それぞれの分野で調査や実験に基づいた研究を行っており、長野県をフィールドとした調査を心がけるとともに、地域連携・地域貢献にも力を入れています。

※ コースの研究教育について紹介する紹介動画を用意しています。以下の URL よりご覧ください。

<https://youtu.be/-UI00LjTY0U>

2. 新任教員に期待すること

上記の文化情報論・社会学コースのコンセプトと教育理念、および信州大学の理念・目標、人文学部の理念・教育研究目標に共感し、ご自身の研究領域・テーマを探求しながらも、他の教員の専門性と互いに補完・協働し、本学における研究・教育に熱意を持って取り組んでいただける方を期待します。具体的には、下記の要件を満たす方を望みます。

- ①創造的で高度な研究を推進するとともに、学生教育に強い意欲と情熱をもつてのぞむことができる方。
- ②社会学を専門とする質的なアプローチに基づく経験的研究の実績があり、最新の調査技法・分析技法に通じており、質的なアプローチを中心に学生に調査・分析教育ができる方。ただし、量的なアプローチにも通暁し、量的調査・分析教育も可能な方が望ましい。
- ③地域貢献に理解と関心があり、自治体や地域社会と連携した社会調査と社会調査実習の指導を、新鮮な感覚で進めていくことができる方。

※信州大学の理念・目標、人文学部の理念・教育研究目標は以下の URL で御覧く

ださい。

・ 信州大学の理念・目標

<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/philosophy/mission/>

・ 人文学部の理念・教育研究目標

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/aim.php>

以上